

【8月の気象】

- ▷ 8月は太平洋高気圧に広く覆われて晴天の暑い日が続きます。特に上旬は年間で最も気温が高くなる時期です。農作物の管理や熱中症に十分注意してください。気象台では、当日または翌日の最高気温が35℃以上になることが予想される場合は「高温注意情報」を発表し、熱中症への注意を呼びかけます（当日分は松山地方気象台が発表し、翌日分は高松地方気象台が四国地方を対象に発表）。

高温注意情報の発表状況はこちら → <https://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/data/kouon/>

- ▷ 積乱雲（入道雲、雷雲）の近くでは、落雷や竜巻などの激しい突風、局地的な急な強い雨に注意が必要です。天気予報や気象情報で「雷を伴う」「大気の状態が不安定」「竜巻などの激しい突風」といったキーワードが使われていたり、雷注意報や竜巻注意情報が発表されたら天気の急変に注意してください。雷の音が聞こえたり、黒い雲が近づいたり、急に冷たい風が吹いてきたときは、発達した積乱雲が迫っているサインです。屋外にいる場合は、頑丈な建物など安全な場所へ速やかに避難してください。また、急な強い雨による増水の危険があるため、河川や水路などからは離れてください。

降水や積乱雲の動向(降水・雷・竜巻発生確度)はこちら → <https://www.jma.go.jp/jp/radnowc/>

竜巻注意情報の発表状況はこちら → <https://www.jma.go.jp/jp/tatsumaki/>

参考リンク集 → [https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/tenki\\_chuui/tenki\\_chuui\\_p10.html](https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/tenki_chuui/tenki_chuui_p10.html)

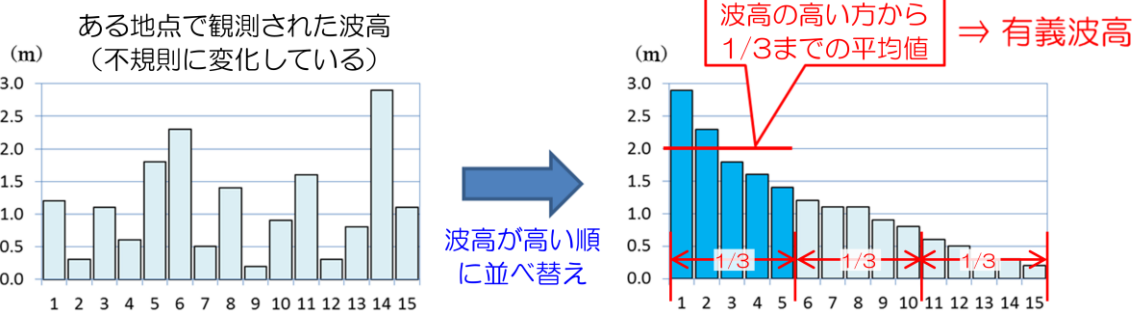
- ▷ 8月は年間で最も多く台風が発生し、日本へ接近する時期です。平年値（1981～2010年）によると、8月は、台風の発生数が5.9個、日本への接近数が3.4個、四国への接近数が1.0個です。台風になる前の熱帯低気圧の発生情報や台風情報を積極的に入手し、早めの台風対策にお役立てください。

熱帯低気圧の発生情報や台風情報ははこちら → <https://www.jma.go.jp/jp/typh/>

台風に関する詳細な説明はこちら → <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/typhoon/index.html>

【気象用語】「有義波高」「風浪」「うねり」とは

海上の波の高さは一波ごとに不規則に変化しています。天気予報の波の高さは、高い方から数えて3分の1までの波の高さを平均したものに相当し、これを「有義波高」といいます。実際には、100個の波（10～20分）のうち最も高い波は予報の波の高さの約1.5倍になります。また、1000個の波（2～3時間）の場合は約2倍になります。例えば波の予報が1.5mの場合、2、3時間に1回は3m近い大波が押し寄せる危険性があるのです。1.5mの高さは大人の背丈に達し、3mともなればオフィスビルの天井の高さに相当します。海水浴や磯釣りなど海のレジャーの際は高波に十分な注意が必要です。



海上の波には、風に吹かれて発達する「風浪」とこれが遠くへ伝わる「うねり」とがあります。うねりの起源は、遠くの海上にある台風に伴う高波が代表的なもので土用波とも呼ばれます。風浪がうねりに変わり遠くへ伝わる時、波の高さは徐々に低くなるものの波長が長くなり、一波一波が水の塊として大きなエネルギーを保ったまま速度を上げつつ進みます。これが水深の浅い海岸へ到達すると、予報の何倍もの大波となって打ち上がります。波の予報で「うねりを伴う」という場合、外洋に向けた海岸では、上記の説明よりもさらに波が高く打ち上がり、波や強い流れによる水難事故が多発します。うねりがあるときの海水浴や磯釣りなど海のレジャーは危険を伴います。

